測量計算・電子野帳（TS）

A-SurveyAd

Android

エース プロジェクト

2020/09

Ver3.4.1 で追加、修正された機能を説明します。

・Drogger GPS、RTKGPS+の TCP 通信に対応

1、 Drogger GPS、RTKGPS+の TCP サーバー通信に対応

最近、掲示板にも RTKGPS+ で RTK とか DG-PRO1RWS を使用しているという投稿が多いです。
DG-PRO1RWS は、GNSS の名称で対応ソフト名が Drogger GPS です。
RTKGPS+も Drogger GPS も、A-AdB とは疑似ロケーション(Mock モード)で通信し、「GPS 座標測定」で使用できます。
ですが、この疑似ロケーションでは測位の情報を A-AdB では確認できません。
下記のような画面になります。

RTK FIX なのか PP なのか DGPS か、RTK Float なのか A-AdB の画面では判断できませんね。

NMEA のデータを受信すると、下記の様に 測位状態、衛星数、DOP、遅れを画面で確認できます。

そこで、TCP 通信に対応しました。
Drogger GPS は、TCP クライアントとして動作し、NMEA データを内部ポートに出力します。
設定は、下記です。

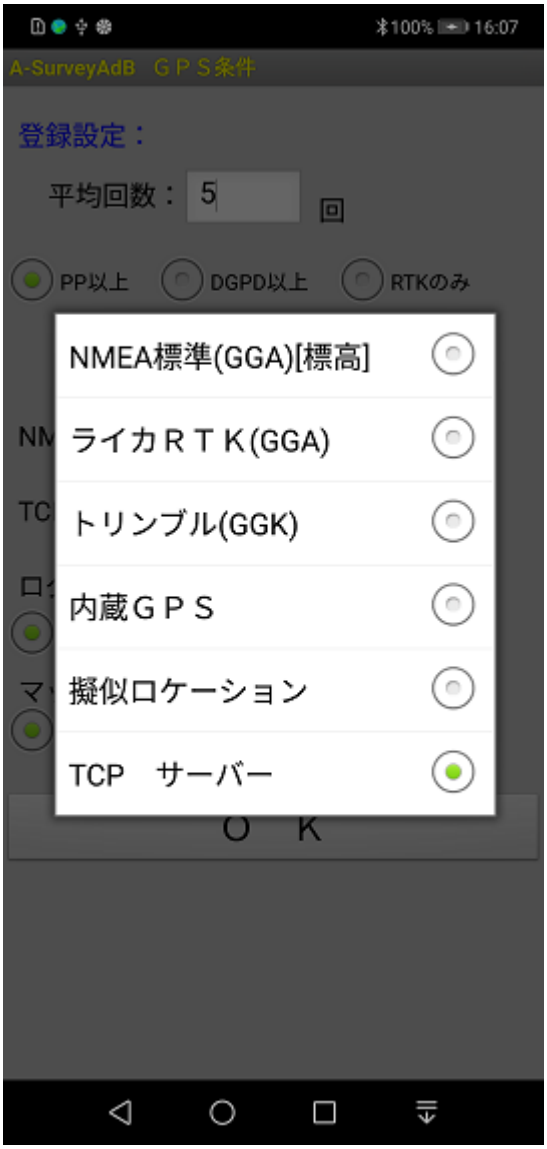
設定で、「NMEA 出力」→「NMEA 出力方法」を選択。
“TCP クライアント”を ON
“TCP クライアント設定”を選択

[localhost]で、変更しない。

ポート番号は、変更してもしなくても OK。
この番号を覚えておいてください。
A-AdB の「GPS 条件」で入力します。

「GPS 条件」で、NMEA のリストから「TCP サーバー」を選択します。
その下の、TCP ポートに、先ほどの Drogger GPS　の TCP のポート番号を
入力します。

これで、Drogger GPS から TCP に出力される NMEA を A-AdB で受信できます。



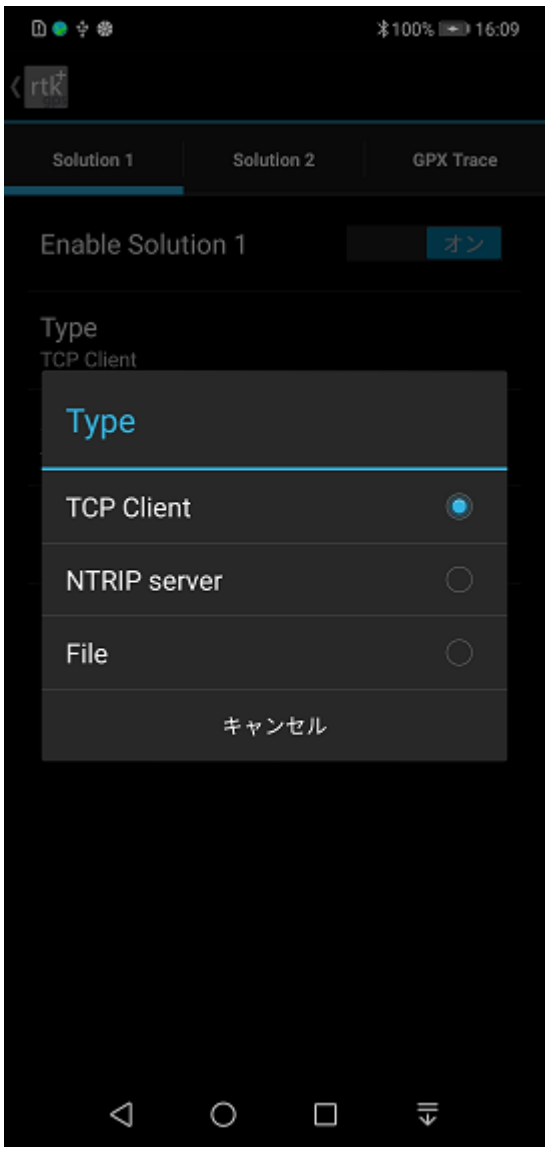
「GPS 座標測定」で、「開始」ボタンを押すと下記の表示になります。

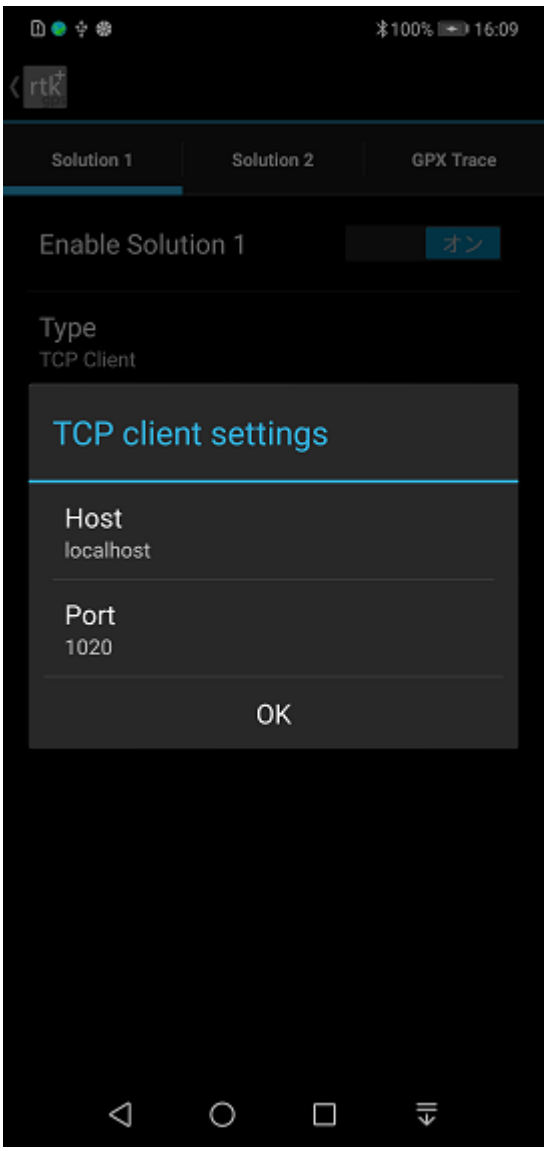
A-AdB の画面で測位状態が確認できます。

測位状態、衛星数、DOP、遅れ　を画面で確認できます。

RTKGPS+ も、同じ TCP 通信ができるようなので、同じく設定をしてください。
「設定」―「OutPut Streams」を選択します。

下記の画面では、ポート番号が 1020 になっています。





RTKGPS+　の方は、動作見確認です。
ここでのポート番号の設定が有効でないとの、話もあるので
動作しない場合は、A-AdB の方で、52001　を入力して試してください。